

# 第5回みやま市地域公共交通 活性化協議会

1. まちづくりや移動実態を踏まえた“確保すべき公共交通の動線” …… 3
2. 住民・交流者・利用者の声から“今後検討が必要な改善” …… 15
3. 運行持続性の向上 …… 25

平成29年10月24日(火)

# ■各種調査の概要

	市民アンケート	福祉バス利用者調査	路線バス利用者調査	主要施設管理者アンケート	主要施設利用者聞き取り調査	高校1年生アンケート
目的	みやま市の地域公共交通が抱える問題点・課題の把握や、今後の公共交通のあり方の検討に向けた基礎資料を収集	福祉バスの利用実態の把握及び問題点・課題の把握に向けた基礎資料の収集、並びに想定されるコミュニティバス化による効果・影響を分析するための基礎資料の収集	堀川バス瀬高柳川線の利用実態の把握及び問題点・課題の把握に向けた基礎資料の収集	市民の移動特性や市外からの来訪の有無の把握に向けた基礎資料の収集及び主要施設と公共交通の連携についての検討に向けた基礎資料の収集	主要生活施設までのアクセス等に関する問題点・課題の把握に向けた基礎資料の収集	みやま市在住の高校生の通学における移動特性や公共交通に対する要望等の把握に向けた基礎資料の収集
対象	住民基本台帳を基に地域別・年齢別に無作為抽出した市民4,000人	福祉バス全路線・全便の利用者	瀬高柳川線全便の利用者（休日は日中の便を中心に6割の便を対象に実施）	交通施設：市内の駅 商業施設：iタウンページ掲載のスーパー、ホームセンター、ドラッグストア 医療施設：各種検診委託機関より抽出 公的施設：市HPより抽出 観光施設：市内主要観光施設 計57施設	主要施設管理者アンケート及び現地合同点検、交通事業者へのヒアリング結果を踏まえ選定した11施設（観光施設1件、医療施設3件、公的施設3件、商業施設4件）	市内在住の全高校1年生
調査手法	郵送配布・回収によるアンケート調査 ※投函依頼兼御礼状を回収 〆切日近くで一度発送	・乗り込み調査（OD調査＋利用者聞き取り調査） ・各路線2日間実施	・OD調査：乗り込み調査 ・平日：アンケート調査票（直接配布＋郵送回収） ・休日：利用者聞き取り調査	郵送配布・回収によるアンケート調査	対面式の聞き取り調査	郵送配布・回収によるアンケート調査
調査日	配布：8/28（月） 回収：9/10（月）〆切 回答期間：概ね2週間	調査日： 8/8（火）～10（木）、17（木）	調査日：9/14（火）、30（土） アンケート回収： 9/20（水）〆切	配布：8/23（水）～29（火） 回収：9/5（火）〆切 回答期間：概ね1週間	調査日：10/23（月）	配布： 10/17（火）～18（水） 回収：10/30（月）〆切 回答期間：概ね2週間
主な把握項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民の日常的な外出・移動の状況</li> <li>●公共交通の利用状況公共交通に対する不満や改善要望</li> <li>●公共交通のあり方に対する考え</li> <li>●現在の公共交通に対する評価</li> <li>●属性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乗降実態</li> <li>●利用者の移動特性</li> <li>●福祉バスの利用理由</li> <li>●福祉バスに対する改善要望</li> <li>●有料化した場合の支払可能額</li> <li>●属性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乗降実態</li> <li>●利用者の移動特性</li> <li>●瀬高柳川線に対する改善要望</li> <li>●属性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設の利用状況</li> <li>●施設利用者の特性</li> <li>●公共交通との連携に対する意向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設利用者の外出移動特性</li> <li>●施設利用者の公共交通の利用状況</li> <li>●公共交通に対する意向</li> <li>●属性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通学移動特性</li> <li>●公共交通の利用状況</li> <li>●公共交通に対する意向</li> <li>●通学に対する保護者の意向</li> <li>●属性</li> </ul>
回収結果	配布：4,000票 回収：2,103票 回収率：52.6%	福祉バス利用者：406人 聞き取り実施数：240人	路線バス利用者：461人（平日） アンケート回収：113票 聞き取り実施数：134票	配布：57施設 回収：42施設 回収率：73.7%	（未実施）	（未実施）

みやま市の上位・関連計画を踏まえて、  
今後のまちづくりを進めていく上での地域公共交通の問題点・課題



※ 3つの視点から整理する

みやま市の地域公共交通の問題点・課題

- 1. まちづくりや移動実態を踏まえた“確保すべき公共交通の動線”**
  - 1) 今後のまちづくりの観点から求められる公共交通サービス(上位・関連計画の整理から)
  - 2) 市民の移動特性からみた求められる公共交通サービス(市民アンケートから)
- 2. 住民・交流者・利用者の声から“今後検討が必要な改善”**
  - 1) 市民の公共交通に対する評価・考え
  - 2) 市外からの来街者
  - 3) 公共交通利用者の視点からみた公共交通サービスの改善点
- 3. 運行持続性の向上**
  - 1) 利用状況や財政面からの課題
  - 2) 交通事業者の現状から見た課題

# 1. まちづくりや移動実態を踏まえた“確保すべき公共交通の動線”

# ■まちづくりや移動実態を踏まえた“確保すべき公共交通の動線”

## 1)今後のまちづくりの観点から求められる公共交通サービス(上位・関連計画の整理から)

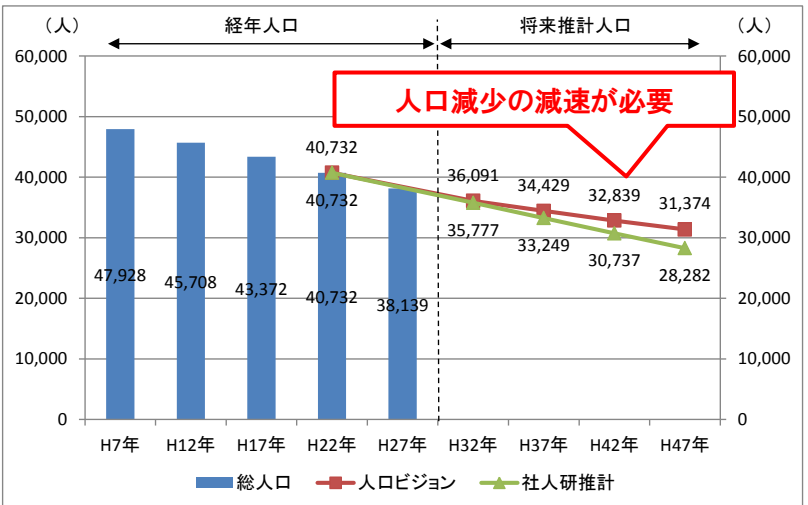
- ① 定住促進に向けた鉄道駅へのアクセスの充実
- ② 健康長寿のまちづくりに向けた福祉施設等へのアクセスの維持
- ③ 観光振興や地場産業の振興に向けた観光施設（オルレなど）や交流施設（道の駅、県営プールなど）へのアクセスの充実

## 2)市民の移動特性からみた求められる公共交通サービス(市民アンケートから)

- ① 外出実態に見合った公共交通の動線の確保
- ② 特に、高齢者をはじめとする交通弱者の外出への対応
- ③ 柳川市、筑後市、大牟田市、南関町など市域を越えた外出への対応
- ④ 福岡、久留米、大牟田などへの鉄道を利用した外出需要の駅までのアクセスの充実

# 1)-① 定住促進に向けた鉄道駅へのアクセスの充実

◆ 今後も人口減少が見込まれる本市にとって、定住促進を図っていくことは喫緊の重要な課題であり、暮らしやすい環境の構築に向け、鉄道駅へのアクセスの充実を図ることが求められる。



資料：各年国勢調査、みやま市人口ビジョン

図1-1 経年人口と将来推計人口

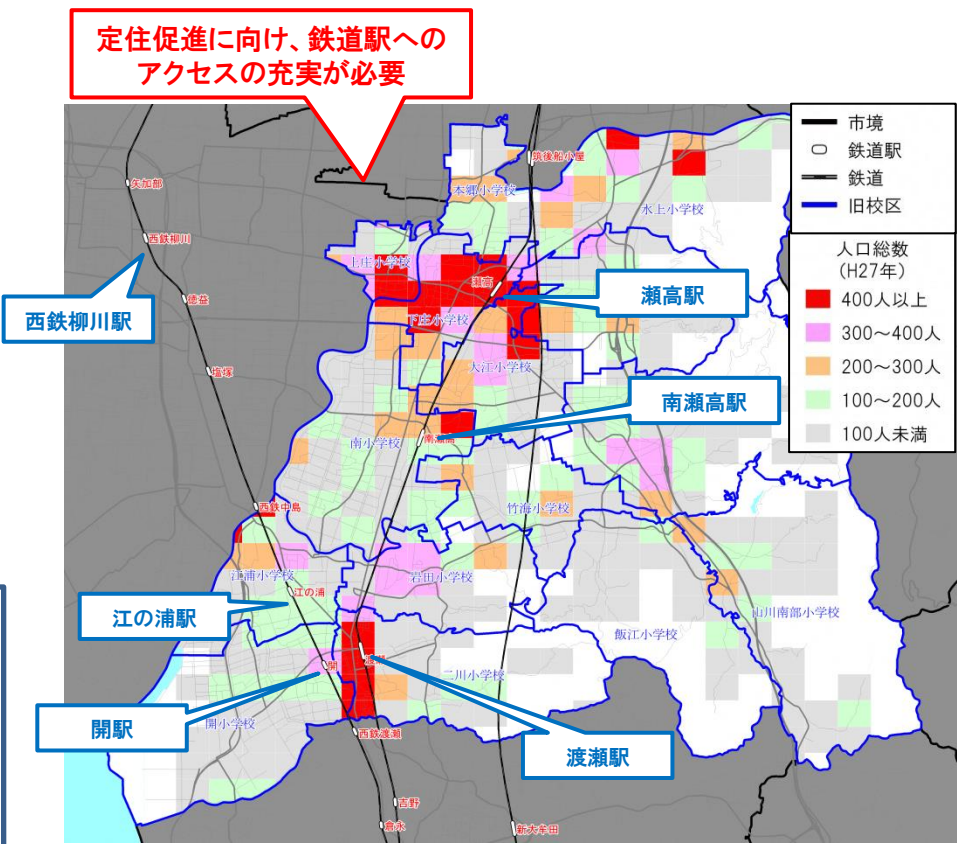


図1-2 人口分布図(500mメッシュ):H27国勢調査

**みやま市 まち・ひと・しごと創生総合戦略**

基本目標(4) 安全安心で持続可能な活力ある地域をつくる

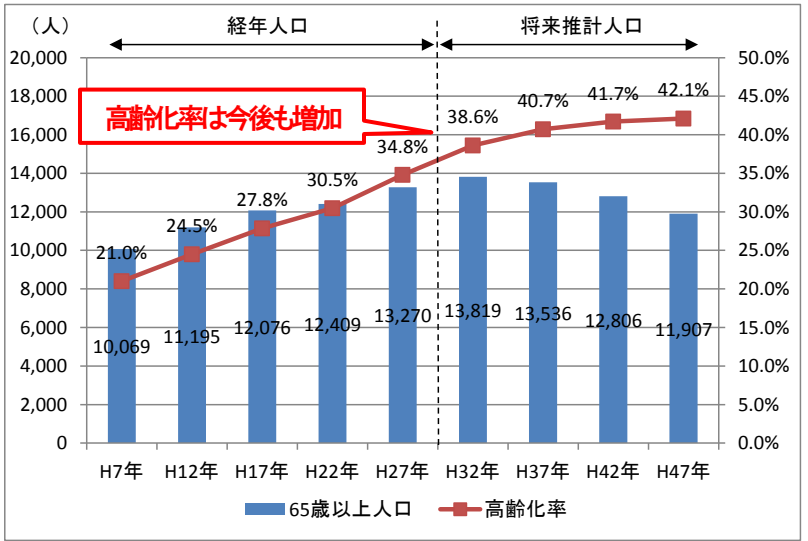
⑤交通の利便性の向上

- ・JR・西鉄駅周辺整備事業
- ・コミュニティバス等交通体系の整備



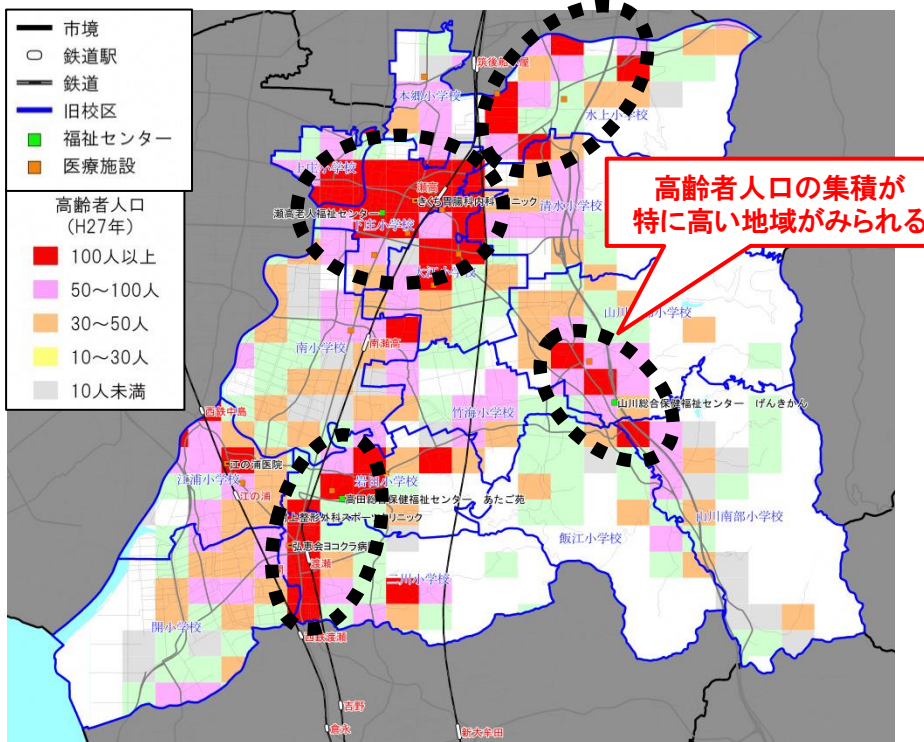
# 1)-② 健康長寿のまちづくりに向けた福祉施設等へのアクセスの維持

◆ 本市では高齢者が今後も増加していくことが見込まれている。また、少子高齢化が進展する中では高齢者の活動がまちの活力に寄与することが期待される。高齢者が元気に暮らしていくために、福祉施設等へのアクセスの維持・確保が求められる。



資料：各年国勢調査、みやま市人口ビジョン

図1-3 高齢者人口と高齢化率の推移



※医院名については、市民アンケートで回答が多いものを表記

図1-4 高齢者人口分布図(500mメッシュ):H27国勢調査

## 第6期みやま市介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画

基本理念 笑顔あふれるまちづくり～生涯現役のまちづくりの推進～  
 基本目標1 生涯現役社会の実現と多様な担い手による支援体制の構築

- ①地域・社会参加の促進
  - 老人クラブ等の活動支援、生涯学習の充実、スポーツレクリエーション活動の促進など

# 1)-③ 観光振興や地場産業の振興に向けた観光施設(オルレなど)や交流施設(道の駅、県営プールなど)へのアクセスの充実

◆ 本市の豊かな資源を活かした観光振興や地場産業の振興に向け、観光施設や交流施設へのアクセスの充実が求められている。

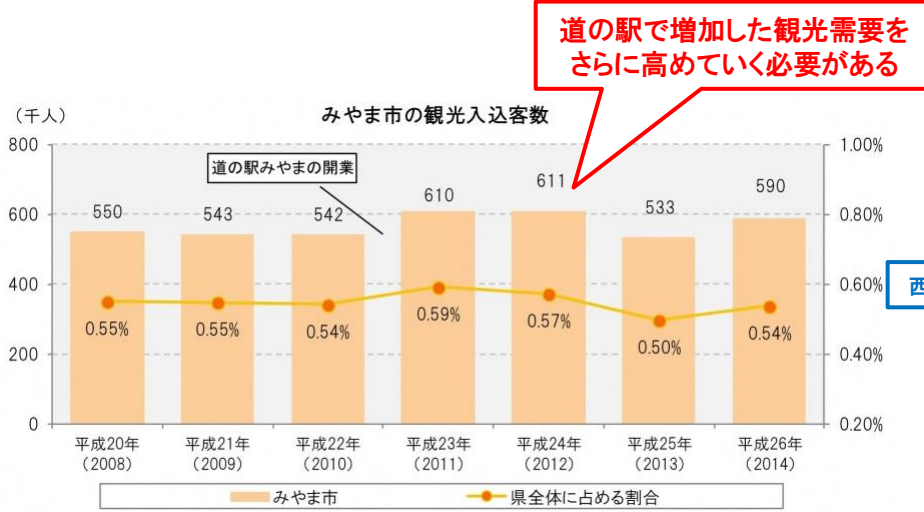
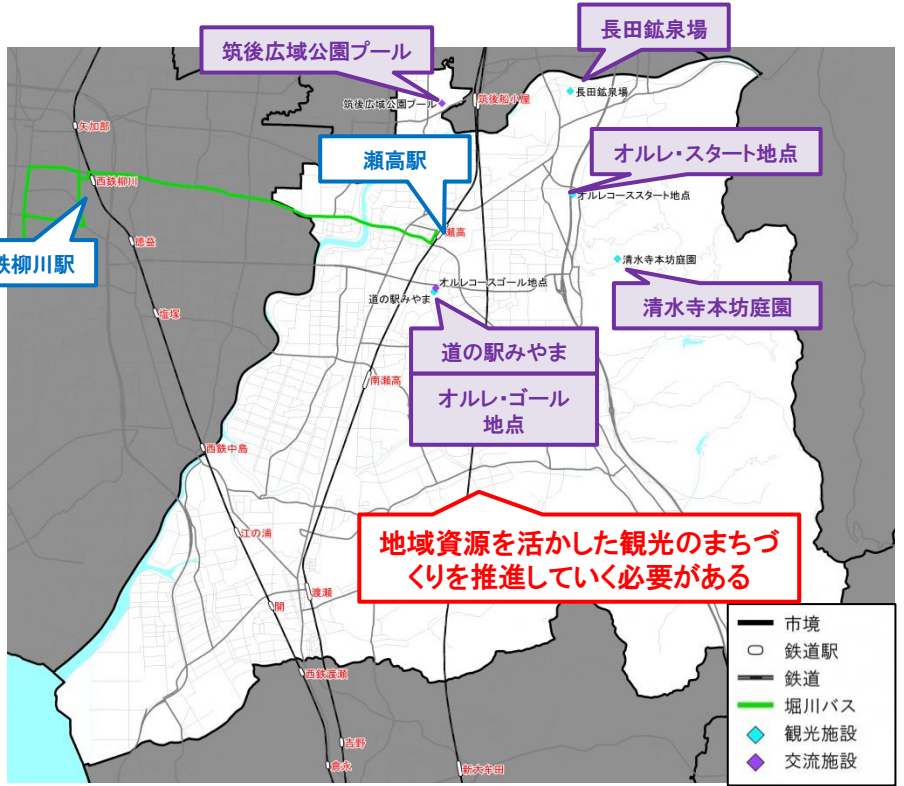


図1-5 みやま市観光入込客数の推移



**第2次みやま市観光振興計画**

アクションプラン3: 観光のまちづくりを推進する基盤整備

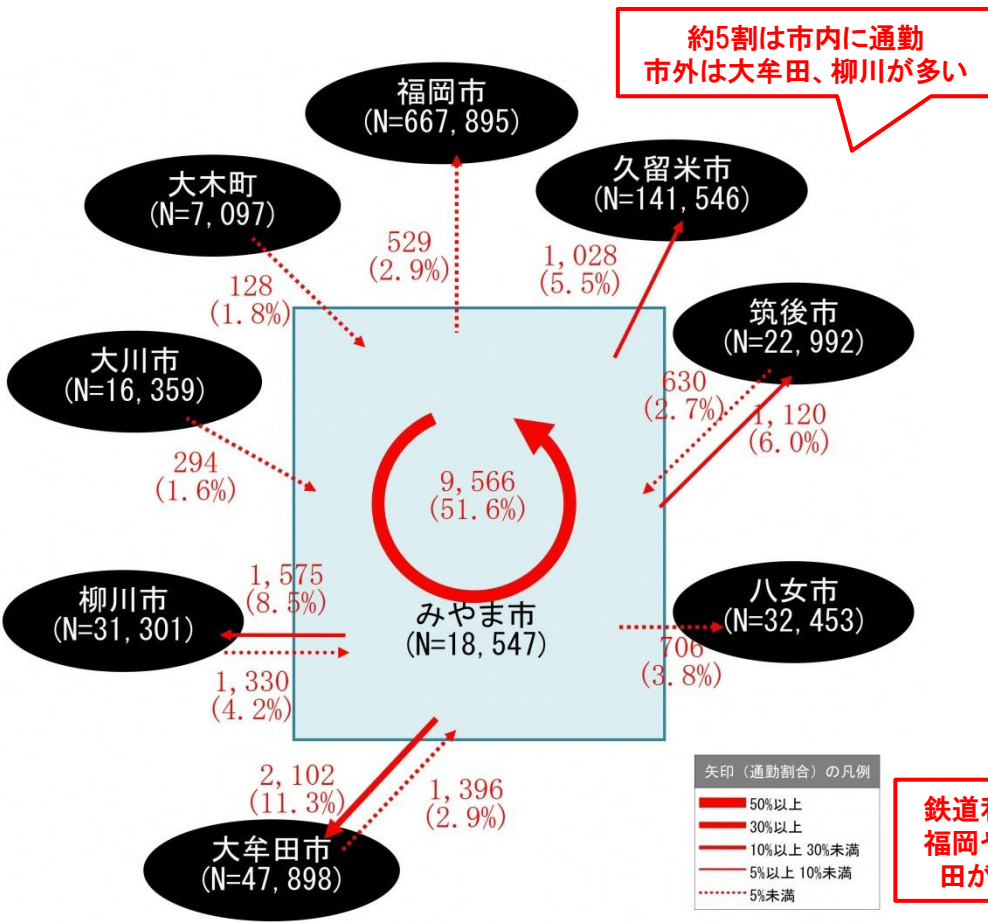
- 九州オルレみやまコースと推進
6. 「道の駅みやま」の活用、地場製品の販売・PR

図1-6 観光施設・交流施設分布図



# 2)-① 外出実態に見合った公共交通の動線の確保【通勤】

- ◆ 市民の約5割は市外に通勤している。主に大牟田市や柳川市への通勤が多い(図1-7)。
- ◆ 通勤の移動手段は大半が自家用車を利用している(図1-8)。また、鉄道は約10%(JR:約6%、西鉄:約4%)存在し、福岡市や大牟田市への通勤者が特に利用している(図1-9)。



注) 1%以上の流動のみ図示している。みやま市への流動が1%未満の市町にはN値を示していない。上段の数値は人数、下段の数値は割合。割合は、常住地に対する通勤流動量である。

図1-7 通勤流動図:H27国勢調査

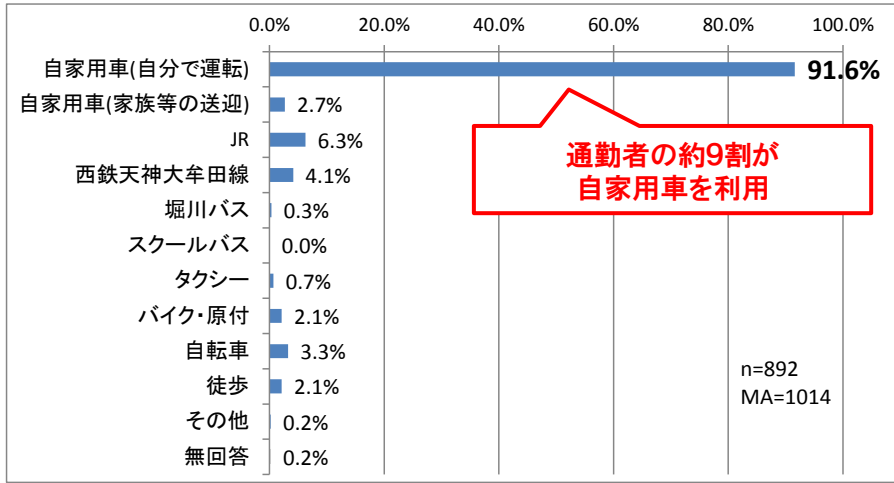


図1-8 通勤者の移動手段: 市民アンケート

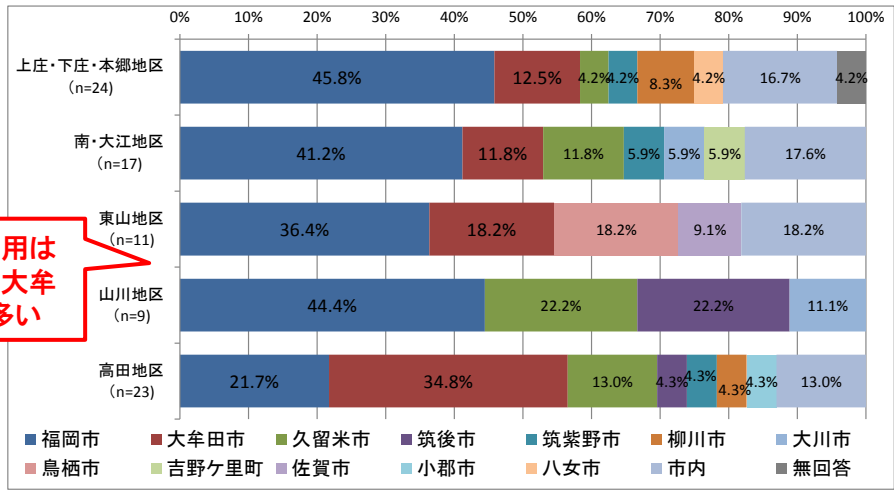
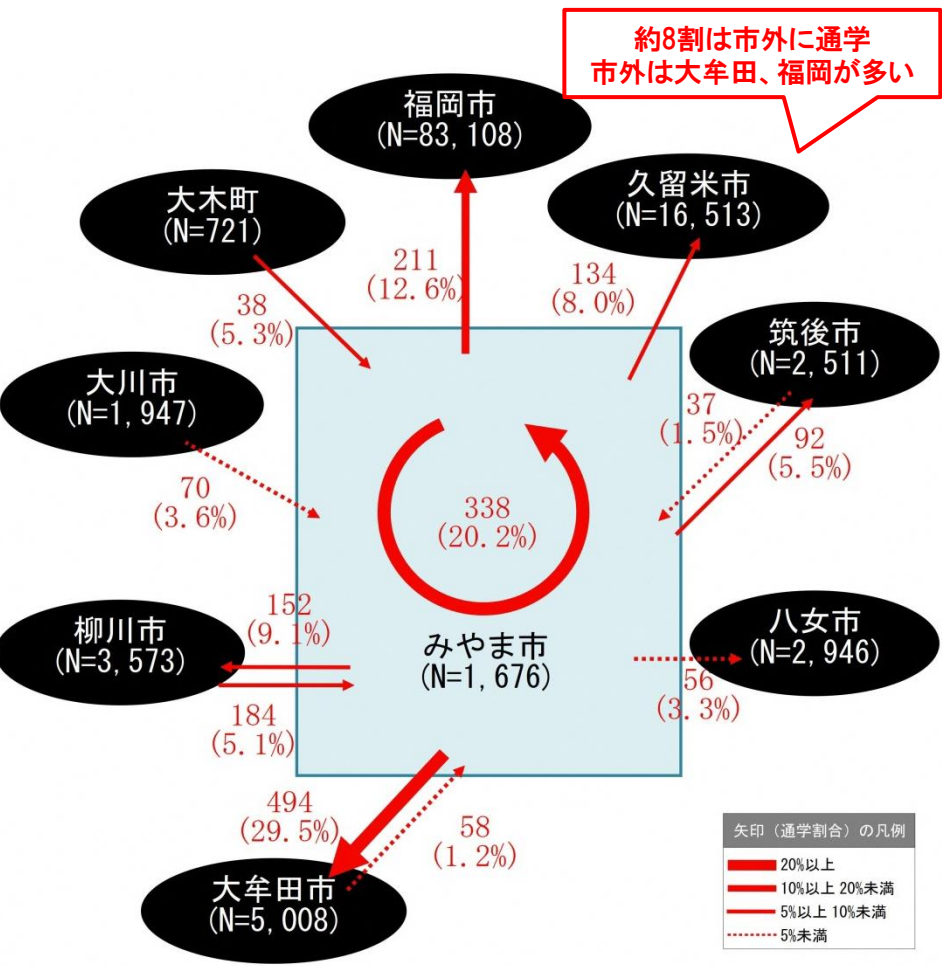


図1-9 鉄道利用者の通勤先: 市民アンケート<sup>8</sup>

## 2)-① 外出実態に見合った公共交通の動線の確保【通学】

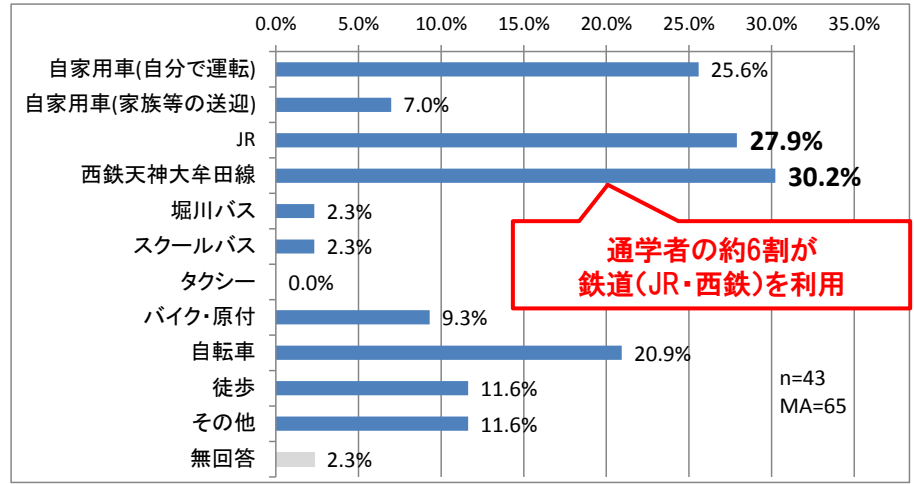
- ◆ 15歳以上の市民の約8割は市外に通学している。主に大牟田市や福岡市への通学が多い(図1-10)。
- ◆ 高校生は主に自転車を利用しており、家族等の送迎もいる(表1-1)。
- ◆ 大学生等は約6割が鉄道(JR:約28%、西鉄:約30%)を利用している(図1-11)。



高校生の通学特性: 路線バス運転手へのヒアリング

- ・市内に在住する高校生は**自転車**を主に利用している。また、駅では**家族の送迎**もよく見かける。
- ・雨の日になると、満車になるほど多くの利用がある。
- ・普段バスを利用する高校生は女子が多い。

表1-1 高校生の通学特性: 路線バス利用者調査



注) 1%以上の流動のみ図示している。みやま市への流動が1%未満の市町にはN値を示していない。上段の数値は人数、下段の数値は割合。割合は、常住地に対する通学流動量である。

図1-10 通学流動図: H27国勢調査

図1-11 通学時の交通手段: 市民アンケート

## 2)-① 外出実態に見合った公共交通の動線の確保【買物】

- ◆ 市民の約6割は市内、約4割は市外に買物で外出している。
- ◆ 瀬高地域、山川地域は瀬高地域へ、高田地域は高田地域や大牟田市へなど居住地ごとに外出先の傾向が異なり、それぞれの外出実態に見合った移動手段の確保が求められる(図1-12)。
- ◆ また、移動手段は主に自家用車を利用している(図1-13)。

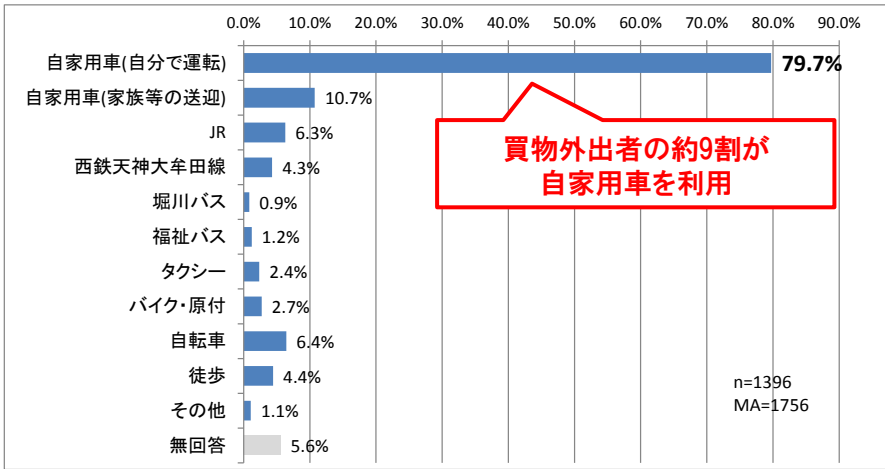
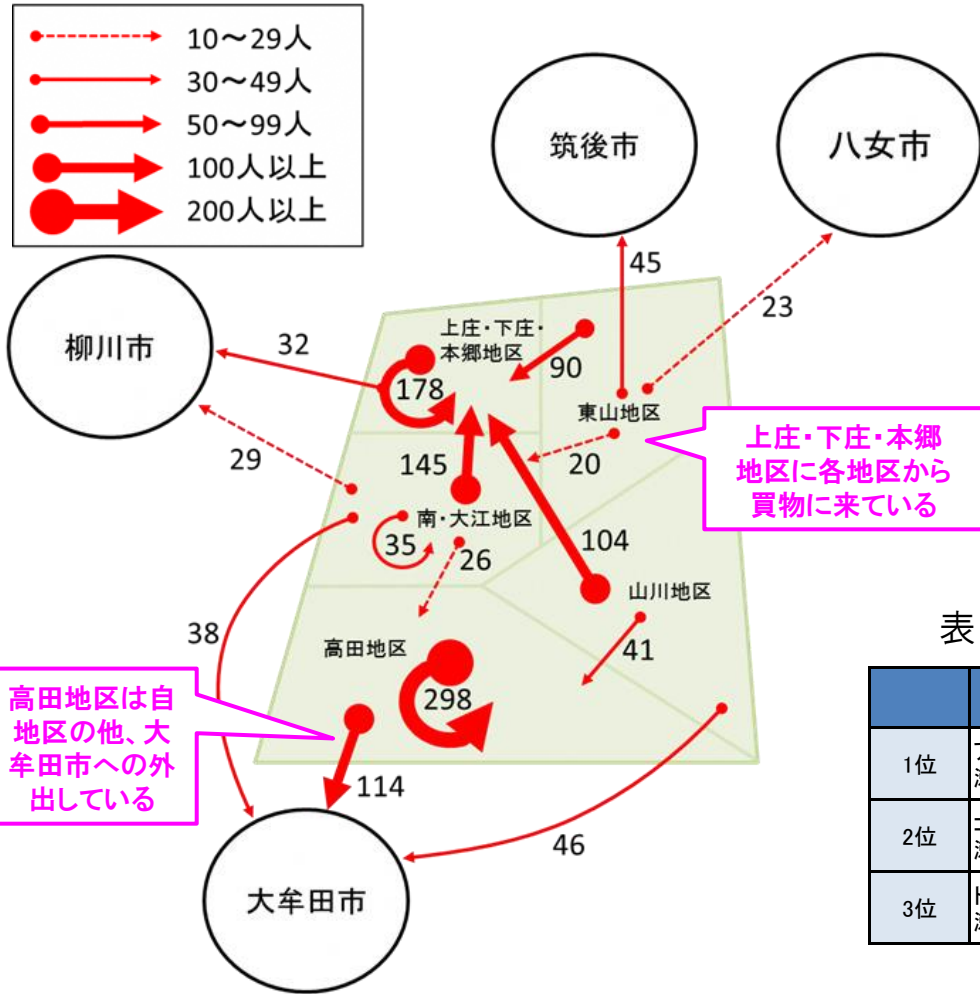


図1-13 買物時の交通手段：市民アンケート

表1-2 地区ごとの需要の高い商業施設：市民アンケート

	上庄・下庄・本郷地区	南・大江地区	東山地区	山川地区	高田地区
1位	アスタラビスタ瀬高店	道の駅みやま	卑弥呼の里	Aコープ山川店	アスタラビスタ高田店
2位	コスモス瀬高店	マミーズ瀬高東店	セブンイレブン上坂田店	—	マミーズ高田店
3位	ドラッグストアモリ瀬高店	セブンイレブンみやま小川店	—	—	ドラッグストアモリ高田店

図1-12 市民の買い物先：市民アンケート

## 2)-① 外出実態に見合った公共交通の動線の確保【通院】

- ◆ 市民の約5割は市内、約5割は市外に通院で外出している。
- ◆ 上庄・下庄・本郷地区には南・大江地区や東山地区、山川地区から通院している。また、高田地区にも南・大江地区や山川地区からの通院がみられる。さらに、高田地区から大牟田市に、東山地区では筑後市にも通院している(図1-14)。
- ◆ また、移動手段は主に自家用車を利用している(図1-15)。

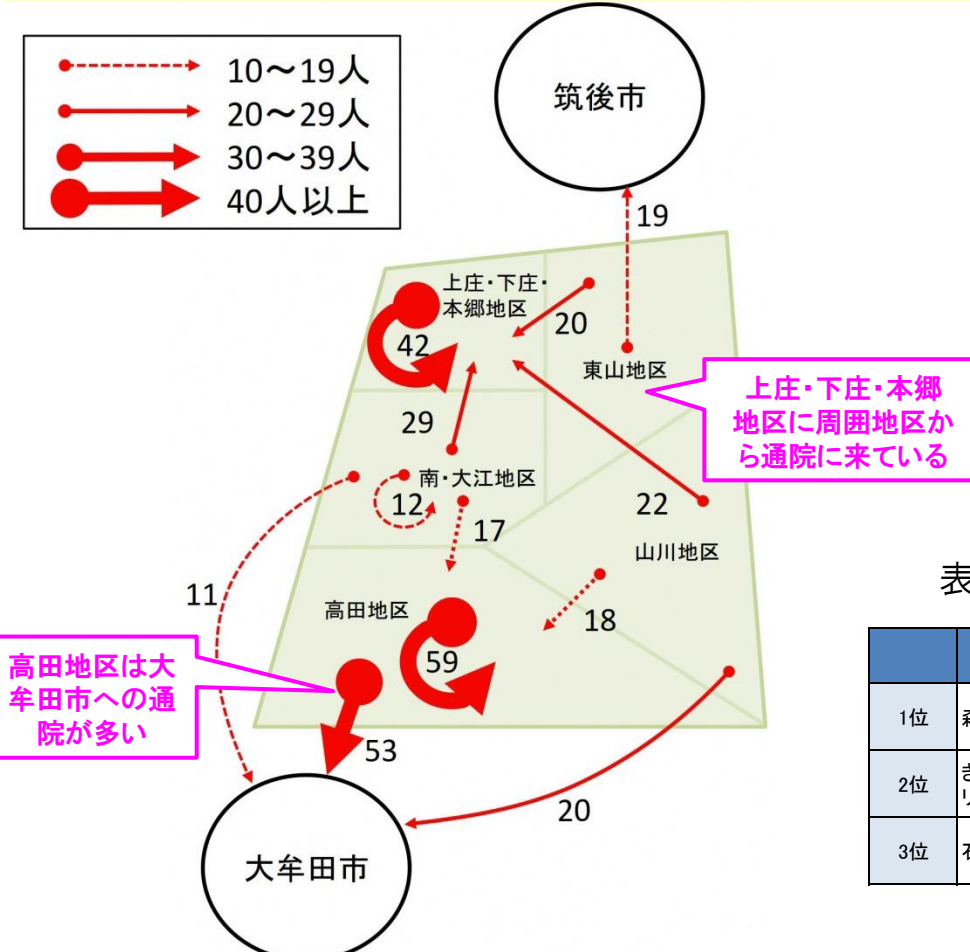


図1-14 市民の通院先:市民アンケート

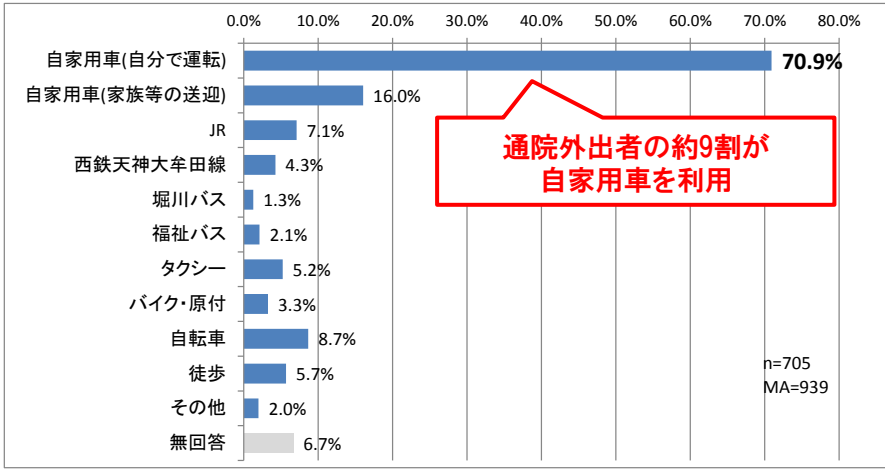


図1-15 通院時の交通手段:市民アンケート

表1-3 地区ごとの需要の高い医療施設:市民アンケート

	上庄・下庄・本郷地区	南・大江地区	東山地区	山川地区	高田地区
1位	森整形外科医院	工藤内科	船小屋病院	植田医院	ヨコクラ病院
2位	きくち胃腸科内科クリニック	渡辺医院	—	—	江の浦医院
3位	石橋眼科医院	山内医院	—	—	村上整形外科スポーツクリニック



## 2)-② 特に、高齢者をはじめとする交通弱者の外出への対応

- ◆ 高齢者(65歳以上)の免許・自家用車保有状況をみると、約2割が自家用車で移動できない状況にある(図1-16)。
- ◆ 自家用車で移動できない人で、家族や知人等にも送迎を頼めない人は全体の約7% (928人中64人)存在する(図1-16)。
- ◆ 75歳以上の高齢者で自家用車で移動できる環境にいる人は6割であり、そのうちの8割は免許を返納しようとは考えておらず、その主な理由は「現在の鉄道や路線バス等では行きたいところに行けない」となっている(図1-18、表1-4)。

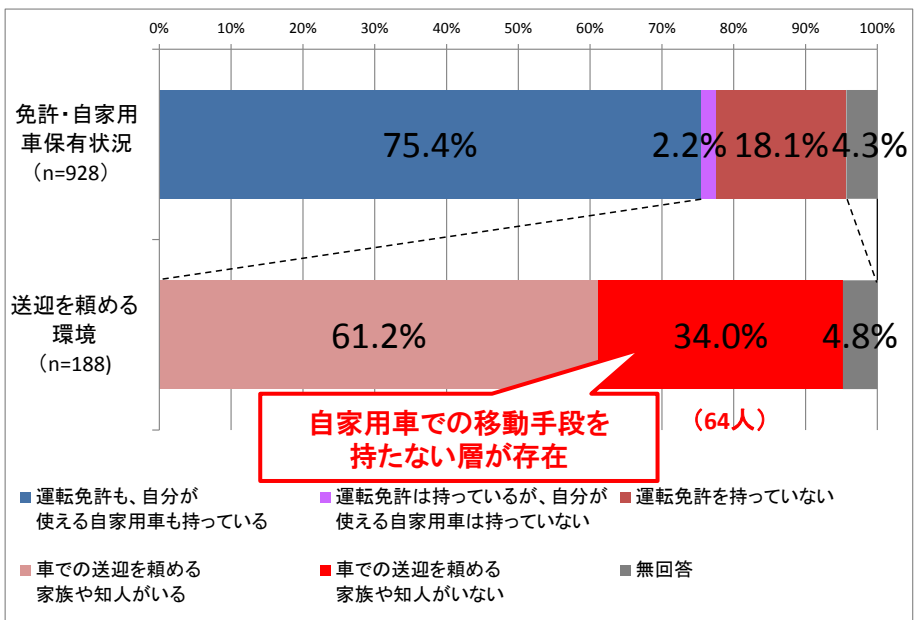


図1-16 高齢者の免許保有状況と送迎環境状況: 市民アンケート

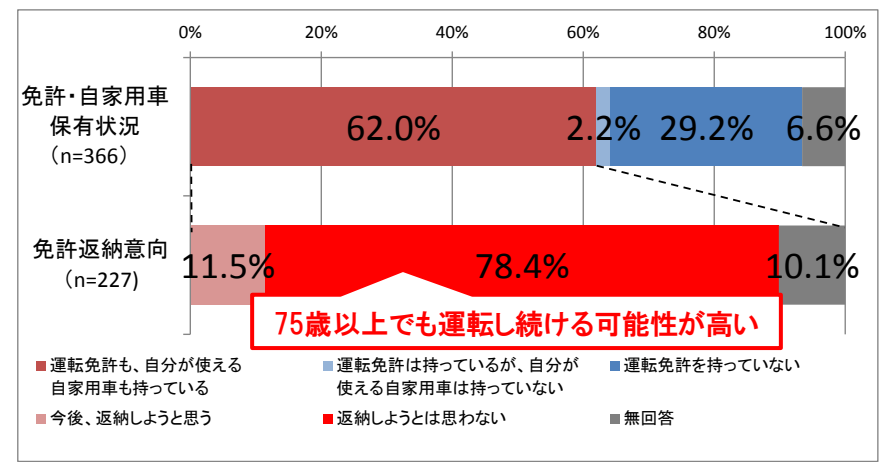


図1-18 75歳以上の免許保有状況と免許返納意志: 市民アンケート

表1-4 高齢者の返納しようとは思わない理由: 市民アンケート

理由	回答数
現在の鉄道や路線バス等では行きたいところに行けない	126票
仕事で必要	12票
身体上の理由から、鉄道や路線バス等が使えない	8票
まだ自分で運転が出来る	6票
その他	15票
無回答	16票

## 2)-③ 柳川市、筑後市、大牟田市、南関町など市域を越えた外出への対応

- ◆ 市民の市外での外出状況を把握するため、買い物に着目して分析した。
- ◆ その結果、市民の4割は、市外で買い物していることが分かった。
- ◆ 特に、八女市や筑後市に隣接している東山地区は5割が、筑後市や柳川市と隣接している上庄・下庄・本郷地区は4割が市外に買い物に出かけている。
- ◆ 市外の買い物先は居住地ごとに傾向が異なり、居住地ごとに対応した移動手段の確保が求められる。

表1-5 居住地区別の買物外出先

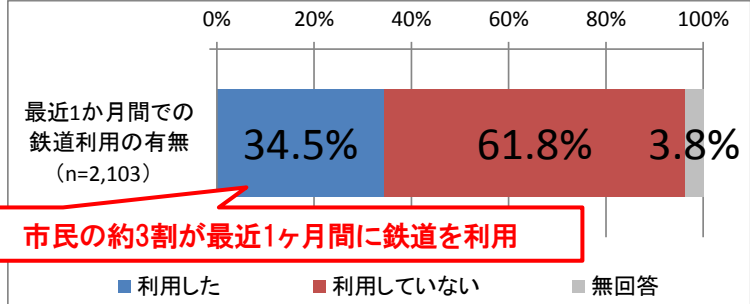
		居住地					
		上庄・下庄・ 本郷地区	南・大江地 区	東山地区	山川地区	高田地区	全体
		n=318 MA=404	n=238 MA=346	n=200 MA=253	n=230 MA=313	n=400 MA=553	n=1386 MA=1,869
買物 外出 先	市外	39.1%	33.5%	47.0%	31.9%	35.3%	36.8%
	大牟田市	7.4%	11.0%	4.3%	14.7%	20.6%	12.8%
	柳川市	7.9%	8.4%	2.8%	5.1%	3.3%	5.5%
	筑後市	6.2%	1.7%	17.8%	1.9%	0.0%	4.4%
	八女市	1.7%	1.7%	9.1%	1.6%	0.4%	2.3%
	南関町	0.2%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.6%
	その他	15.6%	10.7%	13.0%	5.4%	11.0%	11.3%
	市内	60.9%	66.5%	53.0%	68.1%	64.7%	63.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

※外出先の無回答は除く。また、居住地の無回答は除く。



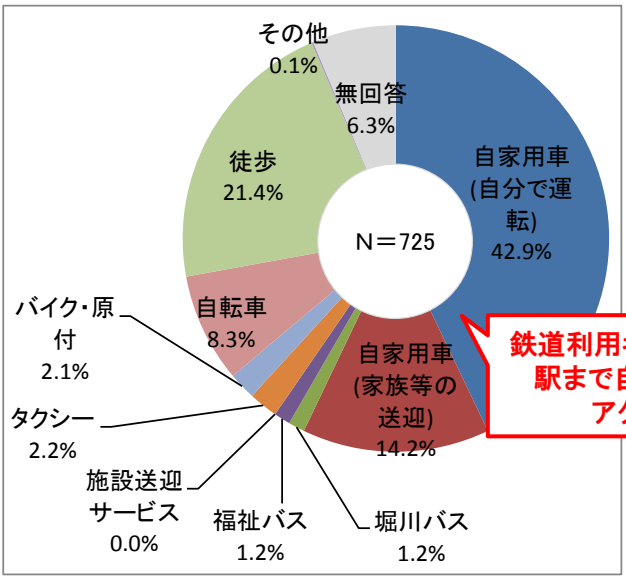
# 2)-④ 福岡、久留米、大牟田などへの鉄道を利用した外出需要の駅までのアクセスの充実

- ◆ 約3割の市民が最近1か月間でJRまたは西鉄天神大牟田線を利用している(図1-19)。
- ◆ その鉄道駅までのアクセスは、6割弱が自家用車(送迎含む)を利用。一方、堀川バス等は数%と僅かとなっている(図1-20)。
- ◆ そうした中、約25%が「駅までのルートを実行してほしい」との改善要望を挙げている。



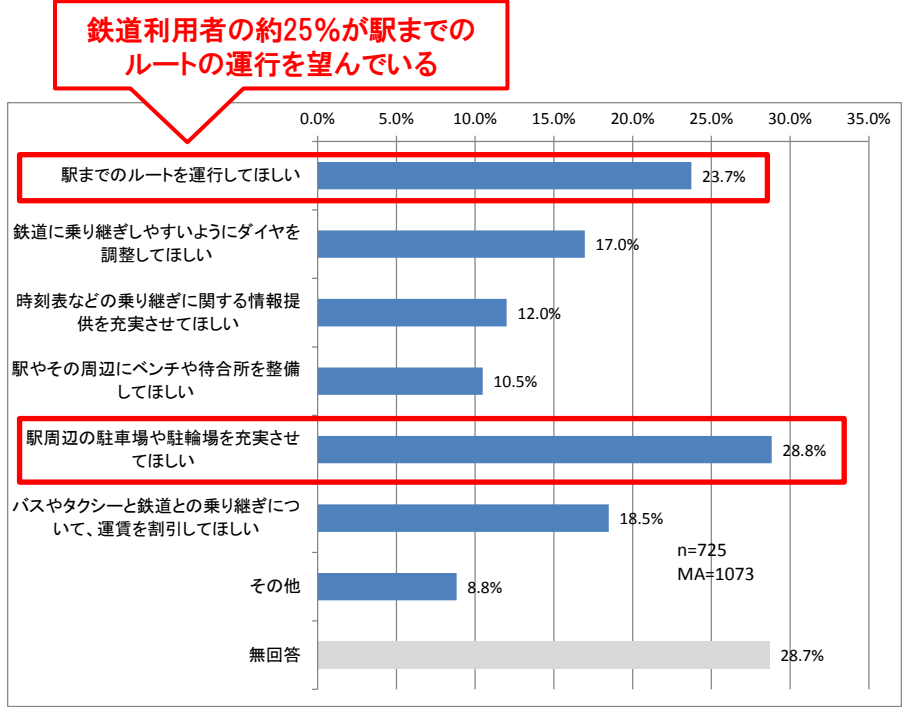
市民の約3割が最近1ヶ月間に鉄道を利用

図1-19 鉄道利用の有無:市民アンケート



鉄道利用者の約6割が駅まで自家用車でアクセス

図1-20 鉄道駅までのアクセス手段:市民アンケート



鉄道利用者の約25%が駅までのルートの運行を望んでいる

駅までのルートを実行してほしい

駅周辺の駐車場や駐輪場を充実させてほしい

図1-21 駅までのアクセスについての改善要望:市民アンケート

## 2. 住民・交流者・利用者の声から“今後検討が必要な改善”

# ■住民・交流者・利用者の声から“今後検討が必要な改善”

## 1)市民の公共交通に対する評価・考え

- ① 現在の公共交通サービスについての評価
- ② 公共交通の必要性に対する考え
- ③ 市の公共交通に対する財政負担についての考え

## 2)市外からの来街状況

- ① 日常的な来街状況
- ② 観光目的での来街状況

## 3)公共交通利用者の視点からみた公共交通サービスの改善点

- ① 路線バス利用者が感じている改善点
- ② 福祉バス利用者が感じている改善点
- ③ 鉄道利用者が感じている改善点
- ④ タクシー利用者が感じている改善点

# 1)-① 現在の公共交通サービスについての評価

- ◆ 現在の公共交通サービスに対しては、各項目ともに4～5割程度が低評価を示している。また、3割程度が「よくわからない」を回答。公共交通を利用しないために判断がつかない、あるいはあまり関心がないといった状況がうかがえる。みやま市の公共交通サービス全般について、約4割が満足していないと回答している(図2-1)。
- ◆ 地区別にみると、山川地区で特に不満度が高い(図2-2)。
- ◆ また、鉄道利用者は低い評価を示し、バス利用者は約3割が高評価を示している(図2-3)

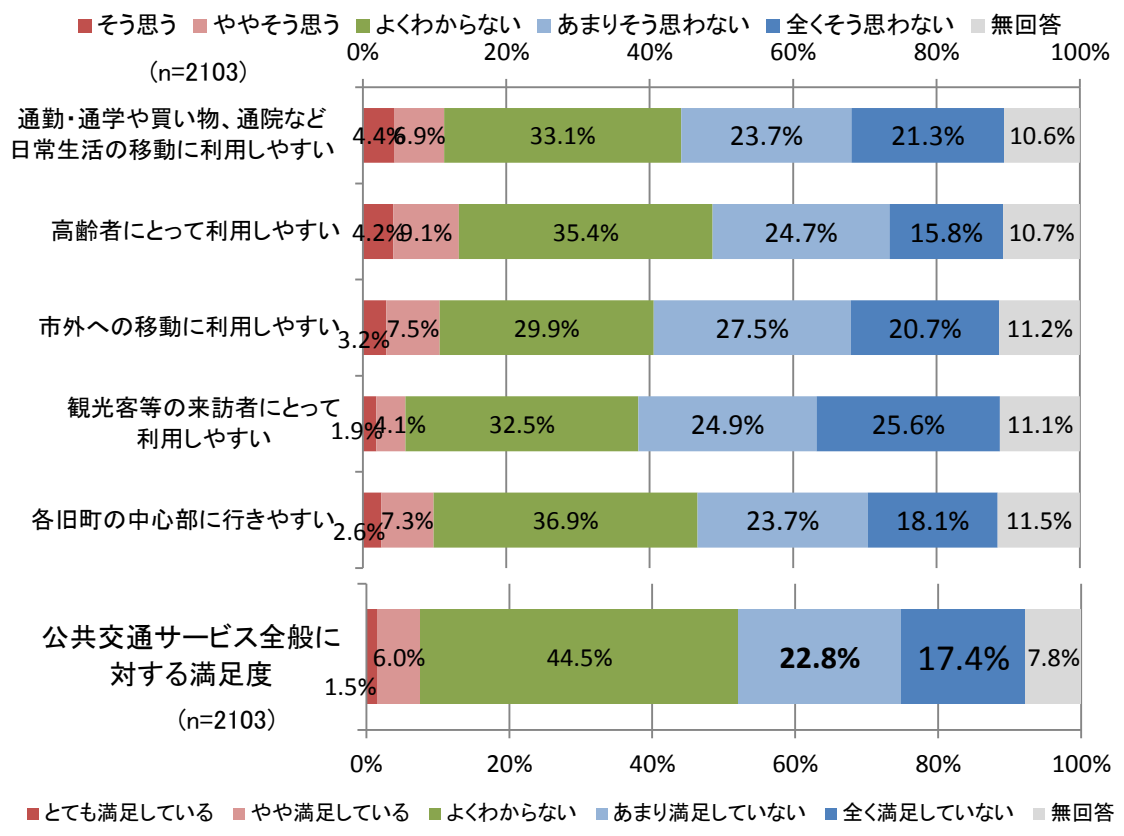


図2-1 公共交通サービスに対する評価と満足度：市民アンケート

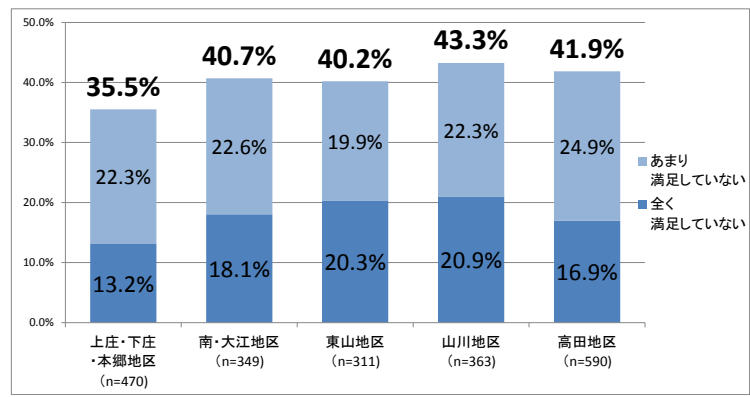


図2-2 地区別の公共交通に対する満足度：市民アンケート

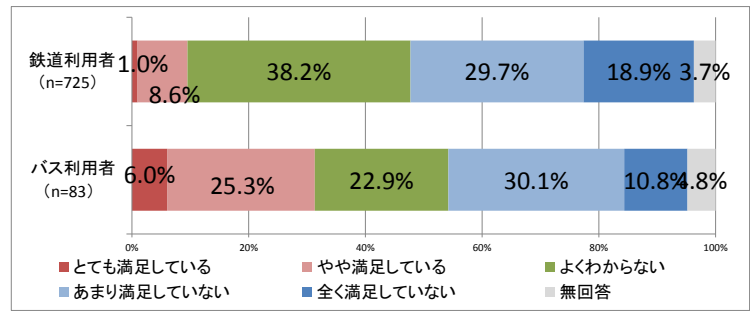


図2-3 公共交通(鉄道、路線バス)利用状況別満足度：市民アンケート 17

# 1)-② 公共交通の必要性に対する考え

- ◆ 市民の9割弱が「将来的に必要」と回答。特に、「今も必要」は約5割を占める(図2-4)。
- ◆ 「今も将来も必要」と回答しているのは、10代や20代などの若年層で割合が高く、自家用車での移動できない人が多い(図2-5、6)。

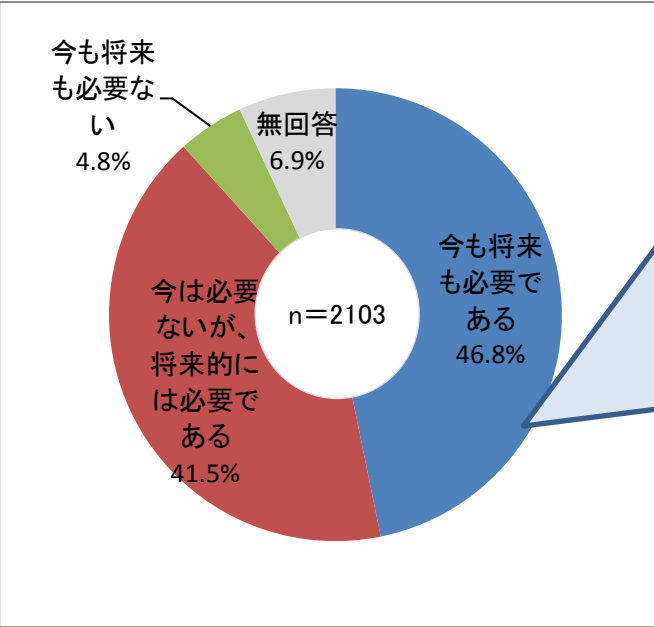


図2-4 公共交通の必要性: 市民アンケート

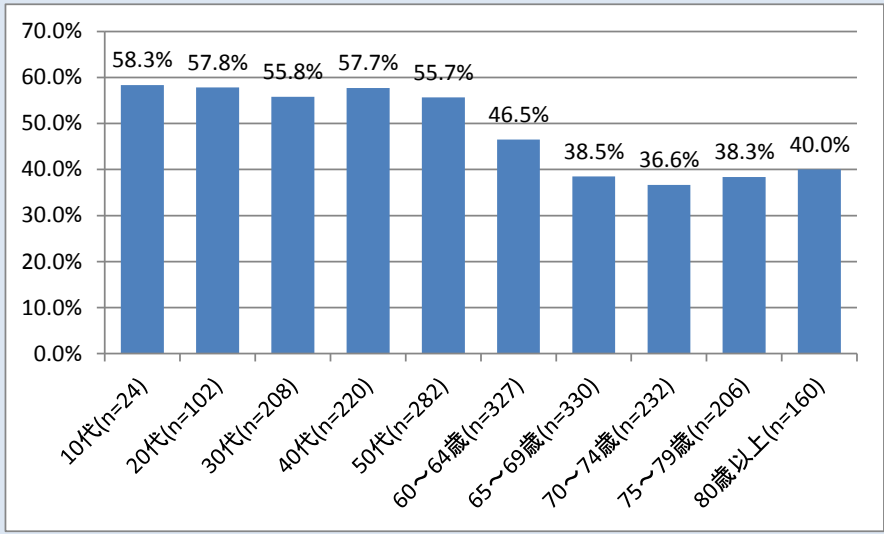


図2-5 年代別の公共交通の必要性に関する回答状況: 市民アンケート

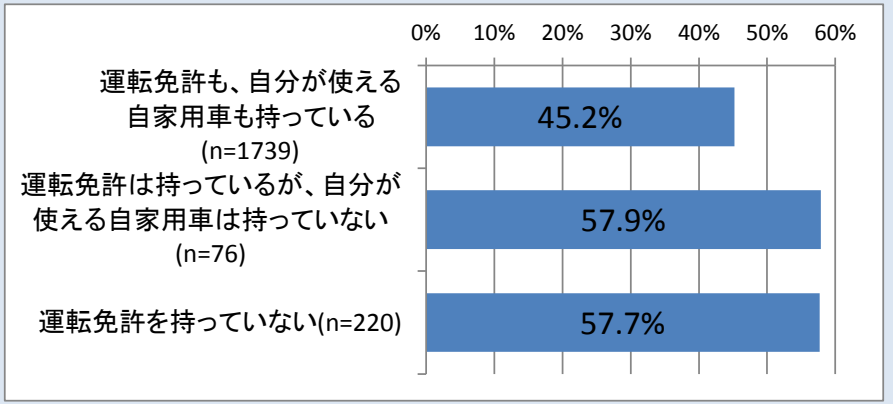


図2-6 自家用車での移動環境別の公共交通の必要性: 市民アンケート

# 1)-③ 市民の公共交通に対する財政負担についての考え

- ◆ 市民の大半は「公共交通の規模を縮小してでも、積極的に財政負担を削減すべき」とは考えていない。
- ◆ 一方で、「財政負担を増やしてまでも公共交通を充実させるべき」といった意見も多くはない。
- ◆ ただ、「公共交通サービスも財政負担も現状のままでよい」とは考えておらず、改善を望んでいる。
- ◆ 最も多い回答は、「財政負担は増やさないようにしながらも、公共交通がより良いものになるように工夫していくべき」となっており、財政負担を念頭に公共交通の改善策を検討していくことに留意する必要がある

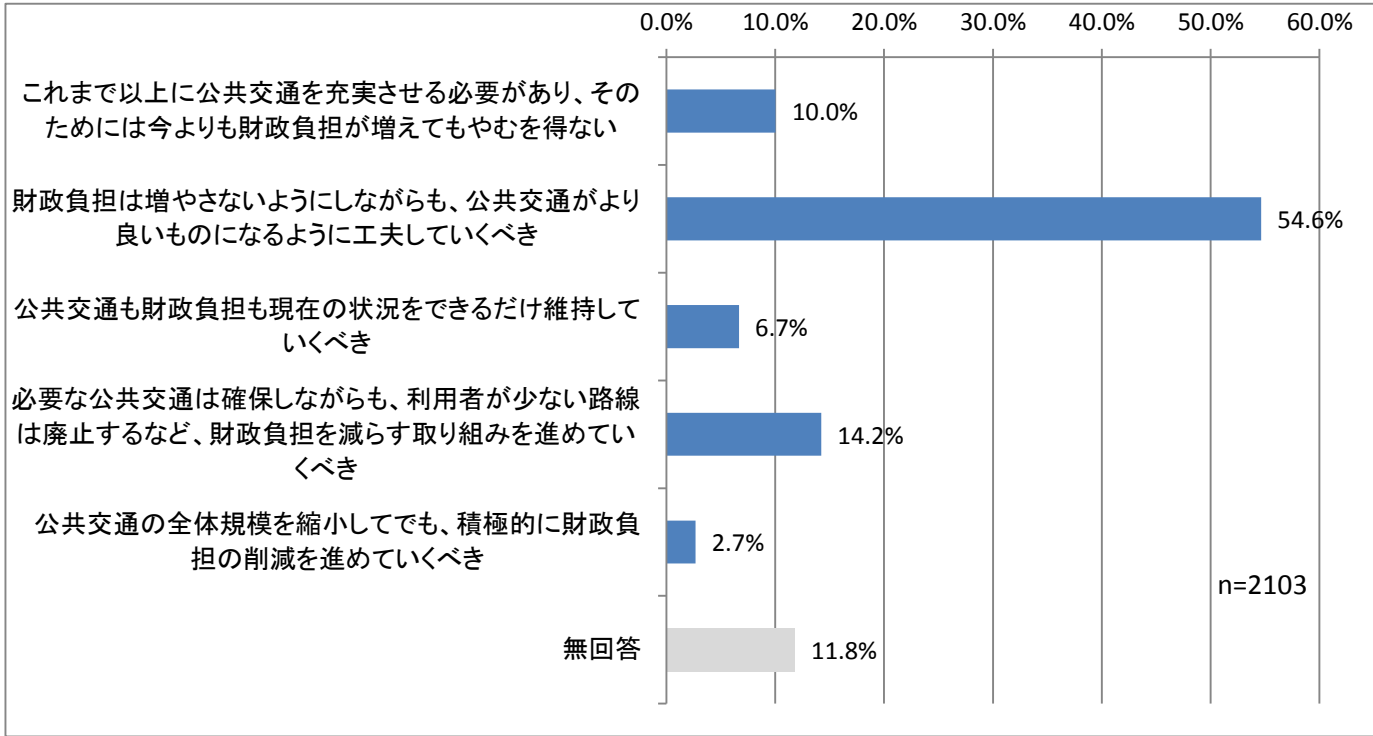


図2-7 財政負担についての考え：市民アンケート



## 2)-① 日常的な来街状況

- ◆ みやま市内の主要生活拠点施設の約6割の施設には、市外からの来客がある。
- ◆ 主に柳川市、大牟田市、筑後市から多く来ている。

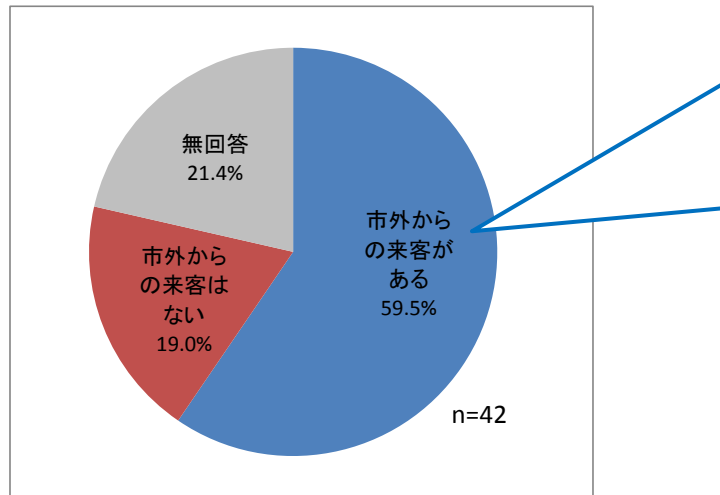


図2-8 主要生活拠点施設への来客状況：  
主要施設管理者アンケート調査

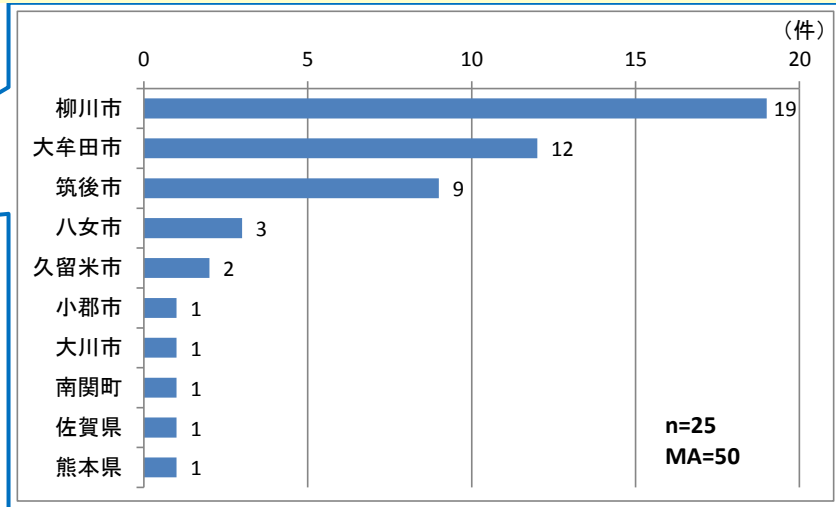


図2-9 主要生活拠点施設への来客居住地：  
主要施設管理者アンケート調査

## 2)-② 観光目的での来街状況

- ◆ みやま市に来訪する観光客は、県内・県外と幅広く訪れている。
- ◆ 移動手段は、主に自家用車、観光バスを利用している。

### 【みやま市観光協会】

- ・みやま市に来訪する観光客は、**県内・県外と幅広く訪れている**ように感じる、また、移動手段としては**自家用車が多く利用**されている。
- ・観光協会を訪れる観光客は、**ほとんどが自家用車か団体バス**を利用して、それは道の駅みやまに公共交通機関がないので、観光客から公共交通に関する観光施設への問い合わせなどはありません。

### 【清水寺本坊庭園】

- ・来訪する観光客の移動手段は、**自家用車、観光バス(団体客)、JR**を利用している。
- ・JR駅からは様々な交通手段でのアクセスが考えられるが、現状、特に施設へのアクセスについて問い合わせなどはありません。

### 3)-① 路線バス利用者が感じている改善点

- ◆ 瀬高柳川線利用者のうち、みやま市区間での乗降者は、4割が市民、6割が市外からの来訪者である(図2-8)。
- ◆ 市民は主に通勤・通学に利用しており、「便数の見直し」「JRの乗り継ぎしやすいダイヤ」「バス待ち環境」などについて改善を望んでいる(表2-1、図2-9)。
- ◆ 市外からの来訪者は主に山門高校の通学需要であり、「バス待ち環境」「便数の見直し」「情報の充実」などについて改善を望んでいる(表2-1、図2-9)。

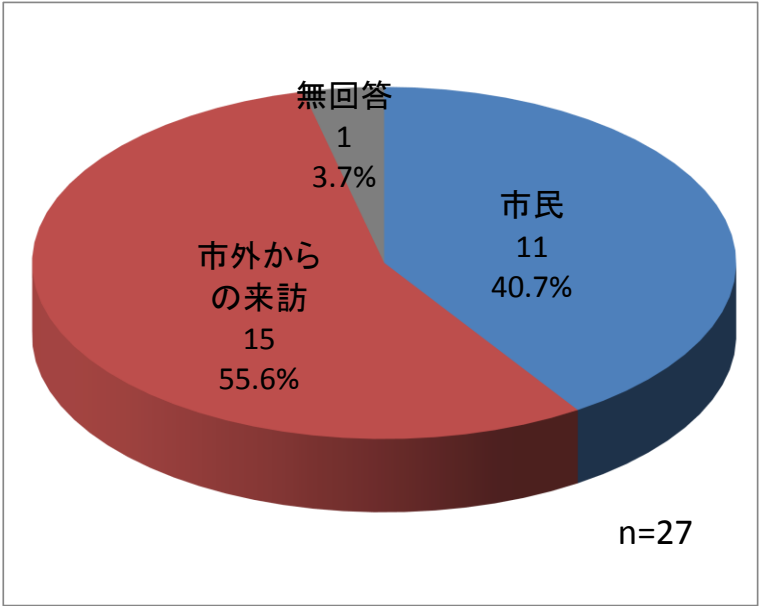


図2-10 みやま市区間利用者の市民構成比: 路線バス利用者アンケート調査

表2-1 みやま市区間利用者の外出目的: 路線バス利用者アンケート調査

	通勤・通学	通院	観光	計
市民	7	3	1	11
市外からの来訪	13	2	-	15
計	20	5	1	26

※属性の無回答を除く

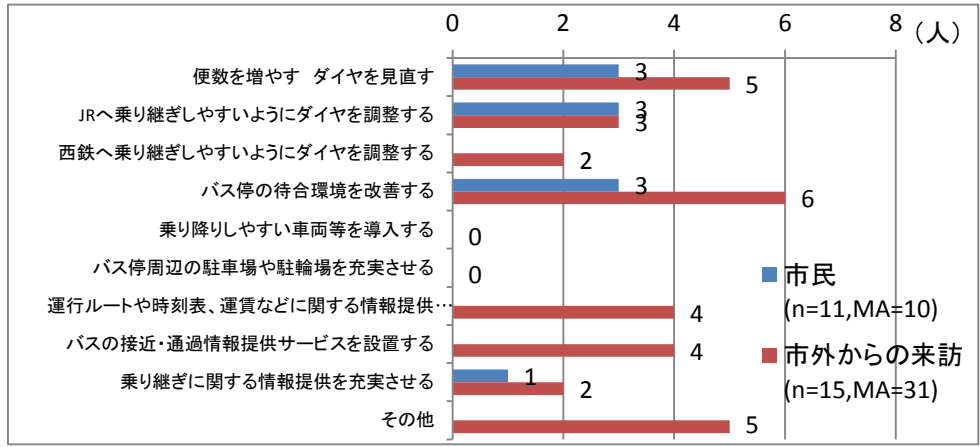


図2-11 みやま市区間利用者の改善要望 21

### 3)-② 福祉バス利用者が感じている改善点

- ◆ 福祉バス利用者は、6割を75歳以上が占めている。また、利用者の約5%は障がい者であり、運転が困難な高齢者や障がい者が主に利用している。(図2-10、11)
- ◆ 福祉バスを利用している理由をみても、自家用車を持っていない、免許を持っていない等自家用車で移動できる環境にない人の回答が目立つ。(図2-12)
- ◆ 福祉バス利用者は「土日祝日の運行をしてほしい」などの改善要望を挙げている。(表2-2)

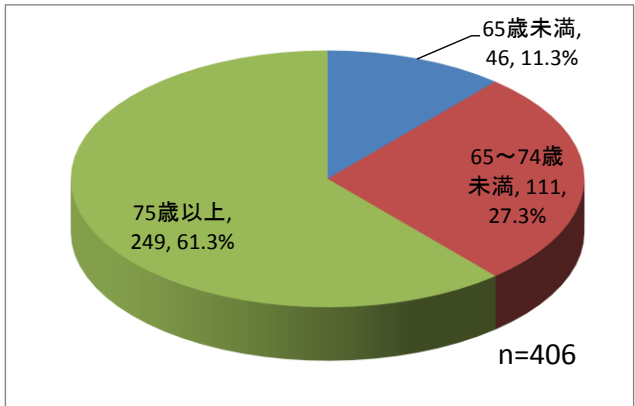


図2-12 利用者の年齢構成:福祉バス利用者聞き取り調査

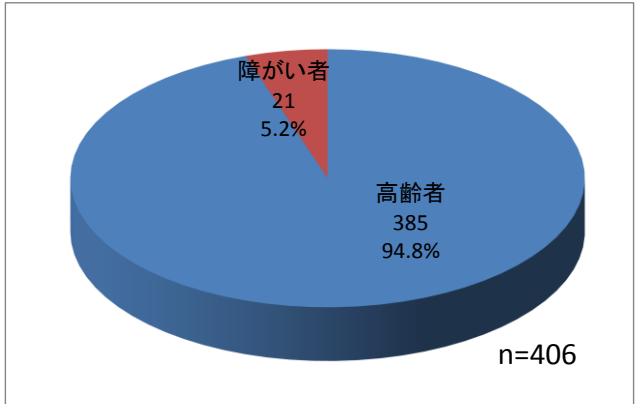


図2-13 利用者構成:福祉バス利用者聞き取り調査

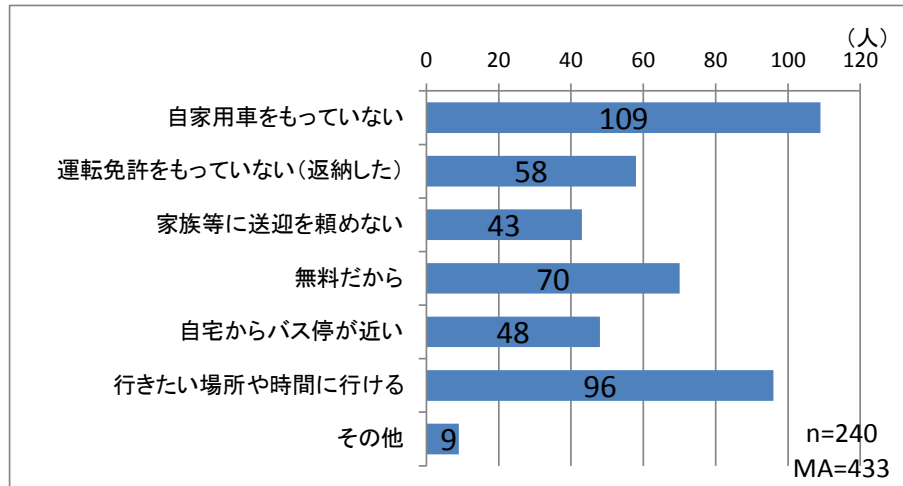


図2-14 福祉バスを利用している理由:福祉バス利用者聞き取り調査

表2-2 福祉バス利用者が感じている福祉バスの改善点:福祉バス利用者聞き取り調査

福祉バス利用者が感じている改善点
土日、祝の運行(毎日運行) 8件
ICカードやフリーパスの導入 3件
便数の増加
分かりやすい時刻表
バス停の新たな整備(目立たない、分かりにくい)
手をあげたら停まるようにしてほしい

### 3)-③ 鉄道利用者が感じている改善点

- ◆ 鉄道を利用している市民の約35%は通勤、約30%は買物で利用している。
- ◆ 通勤利用者は7時台をピークに利用、買物利用者は10時台をピークに利用している。(図2-15)
- ◆ 駅へのアクセス手段は、自家用車(送迎も含む)が最も多く、その他徒歩や自転車を利用している。そのような中、駅周辺の駐車場・駐輪場の整備が強く求められている(図2-16,17)。

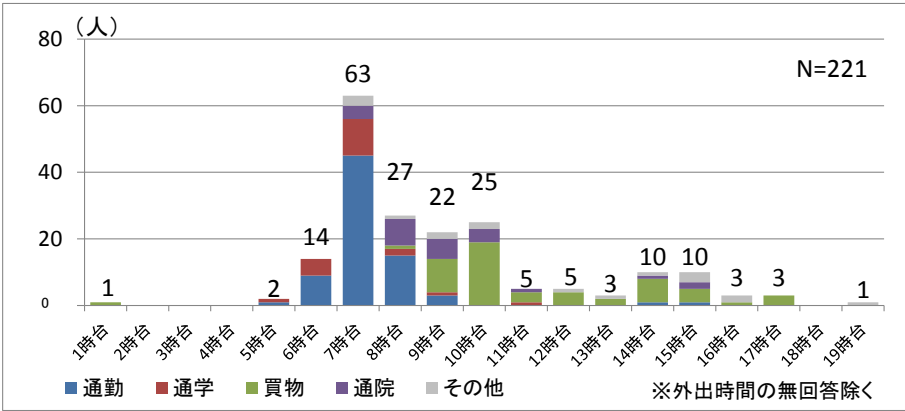


図2-15 時間帯別外出目的別の鉄道利用状況:市民アンケート

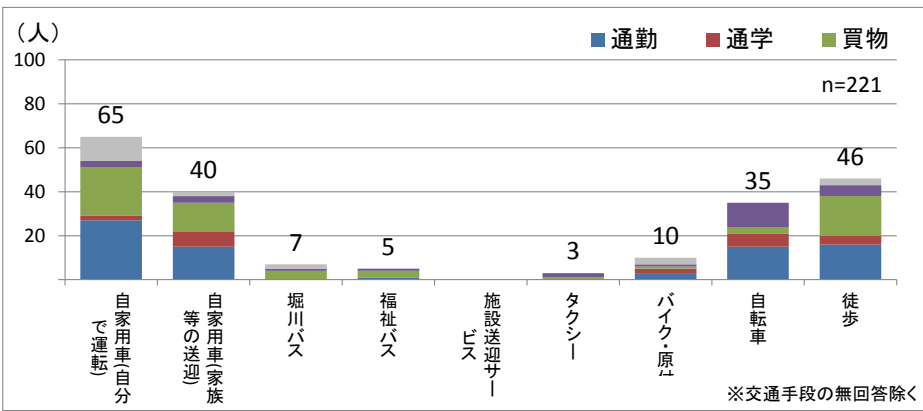


図2-16 外出目的別駅へのアクセス手段:市民アンケート

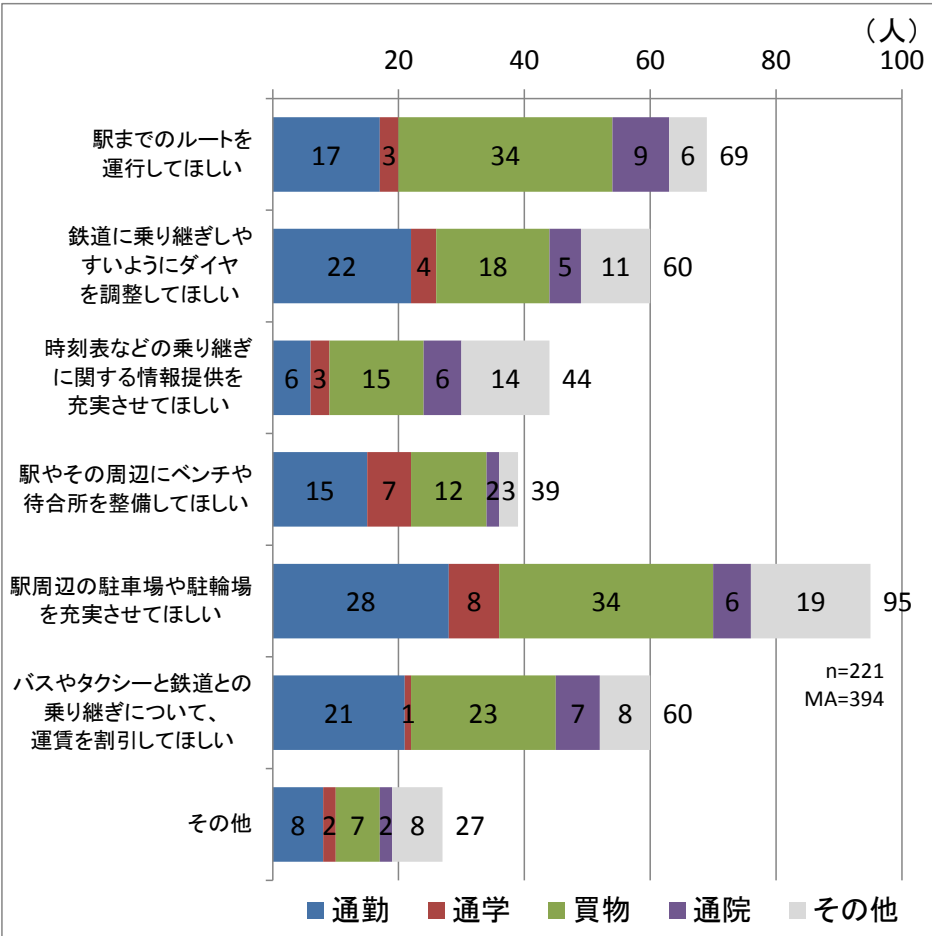


図2-17 外出目的別の駅へのアクセスに対する改善要望:市民アンケート

### 3)-④ タクシー利用者が感じている改善点:交通事業者ヒアリングより

- ◆ 利用者は減少傾向にある。
- ◆ 運転免許証返納者と元々免許を持たない人とで料金割引適用の不平等が生じている。
- ◆ 高齢者が移動に負担を感じれば、短い距離の移動でもタクシーを使っている。

#### タクシーの利用特性

- ・利用者は年々減ってきている。(各社)
- ・減少の要因は飲酒後の帰宅などの夜間の利用が減ってきていることが大きい。運転代行に客が流れてしまっている。また、市全体の人口が減少していることも影響している。(各社)
- ・高齢者の利用が多く、主に買い物や通院に利用している。(各社)
- ・旧山川町は相対的に利用が多い。(A社)
- ・買物での利用で、1メートルのみ利用する高齢者がいる。(B社)
- ・瀬高駅の西側と東側との移動で利用する人がいる。(駅そばの歩道橋にエレベーターが無いため)(C社)

#### タクシー利用者の不満・改善点

- ・運賃が高い。(各社)
- ・現在市が実施している運転免許返納者への特典付与(3万円のタクシーチケットの提供)については、喜んでいて人が多い。ただ、既に運転免許を返納した人やそもそも運転免許を持っていない人等からは不平等との不満が聞かれる。(A社)
- ・年金生活者にとってタクシー料金そのものが負担なので、今の障がい者福祉券を、元気な高齢者にも渡してほしい。(B社)

# 3. 運行持続性の向上



# ■ 運行持続性の向上

## 1) 利用状況や財政面からの課題

- ① 路線バスの運行の課題
- ② 福祉バスの運行の課題

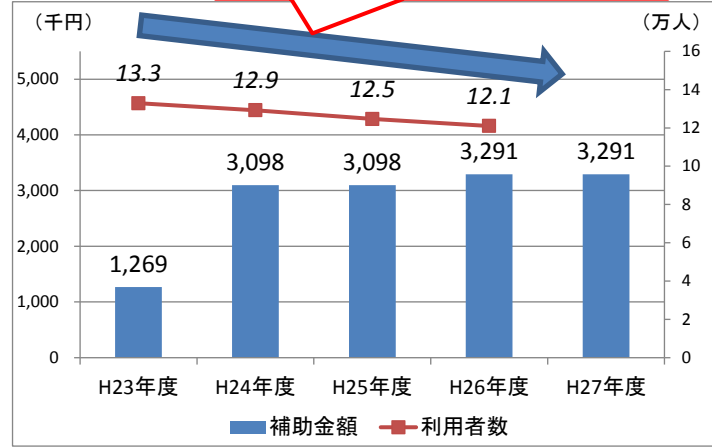
## 2) 交通事業者の現状から見た課題

- ① 交通事業者が取り組んでいる利用促進策
- ② 運行に関する課題
- ③ 交通事業者からの行政に対する意見・要望

# 1)-① 路線バスの運行の課題

◆ 瀬高柳川線の利用者数は減少しており、その影響を受け、財政負担は年々増加している。(図3-1)

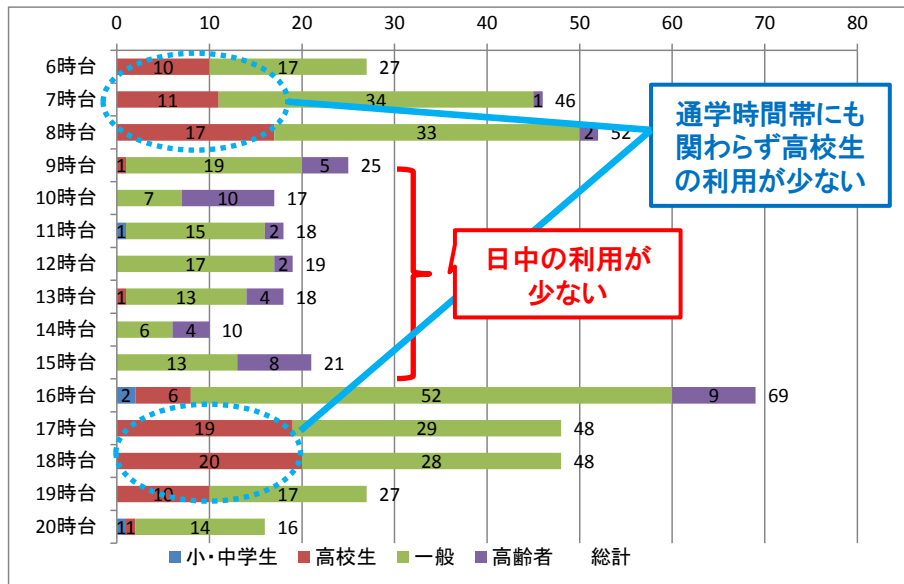
利用者数は年々減少傾向が続いている



資料：市提供資料  
※利用者数は、各年度10～9月

図3-1 利用者数と財政負担額の推移

◆ 時間帯別に利用状況を見ると、日中の利用が少なくなっている。また、通学時間帯であるにも関わらず、一般利用よりも高校生の利用が少ない。(図3-2)



◆ バス停別の利用者数を見ると、近辺に商業施設や医療施設が立地しているバス停でも利用が少ない状況がみられる。(図3-3)

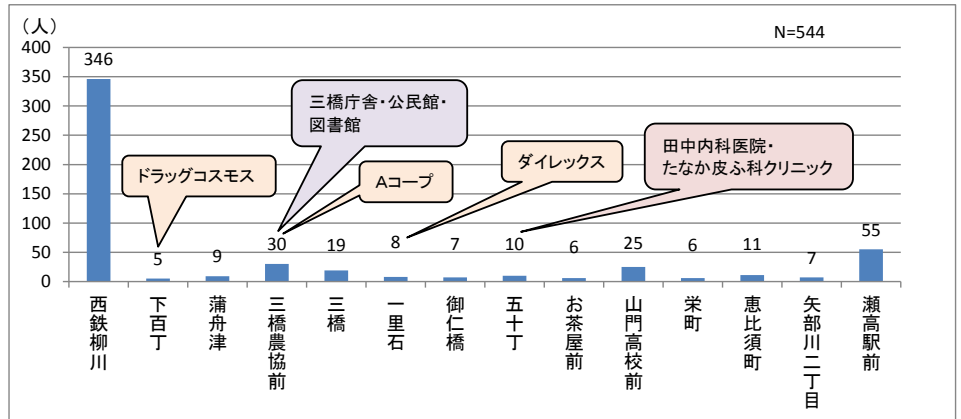


図3-2 時間帯別属性別乗降者数:路線バスOD調査

図3-3 バス停別乗降者数:路線バスOD調査 27

# 1)-② 福祉バスの運行の課題

- ◆ 福祉バスは、JR瀬高駅やかたらい館などが立地する瀬高地域とココラ病院がある高田地域、げんきかんのある山川地域とを結ぶ路線で利用が多い。(図3-4、5)
- ◆ そのような中、利用者一人当たりの委託料は増加している状況にある(図3-7)

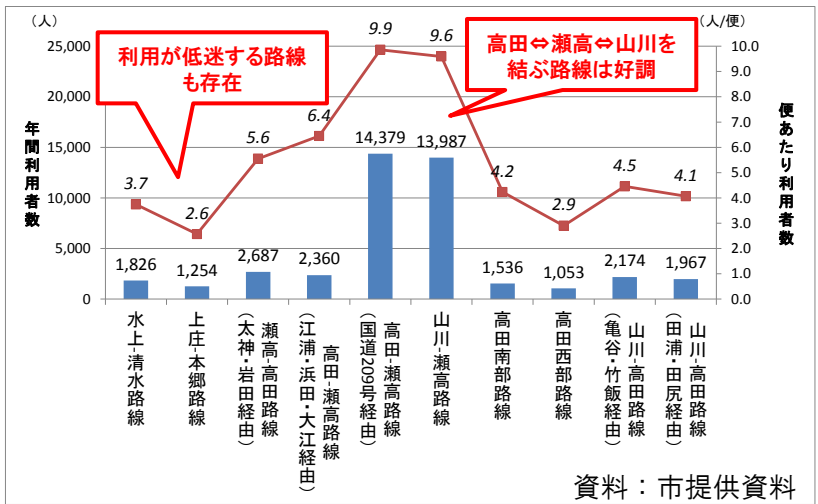


図3-4 H28年度系統別年間利用者数及び便あたり利用者数

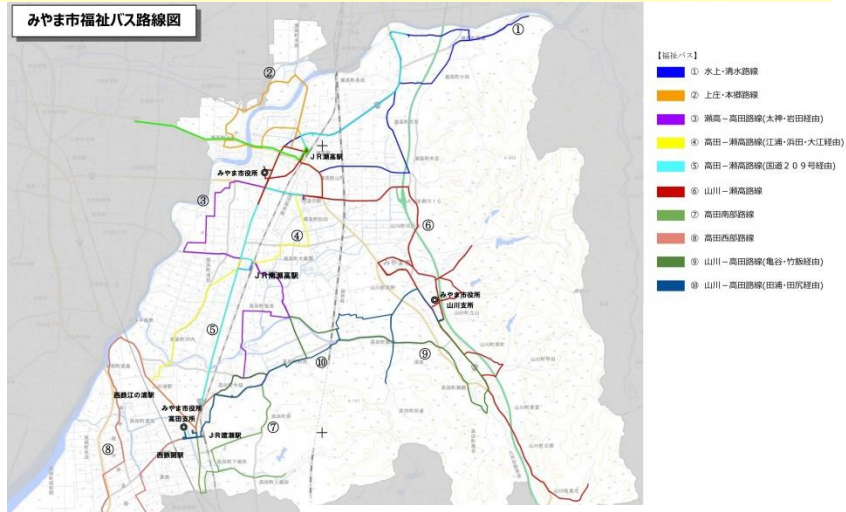


図3-6 福祉バス路線図

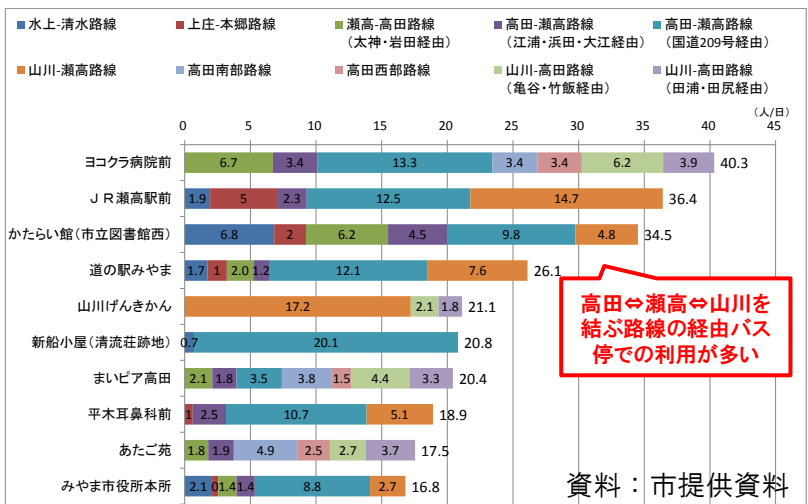


図3-5 H28年度バス停乗降ランキング

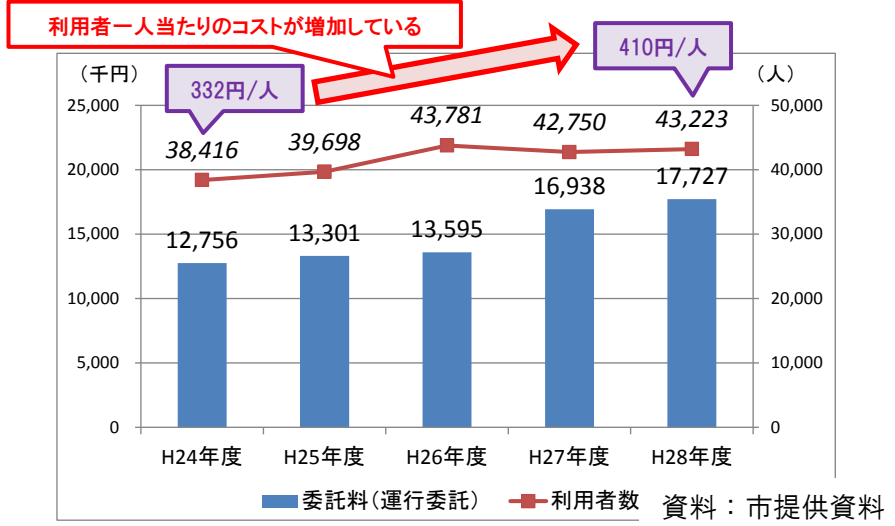
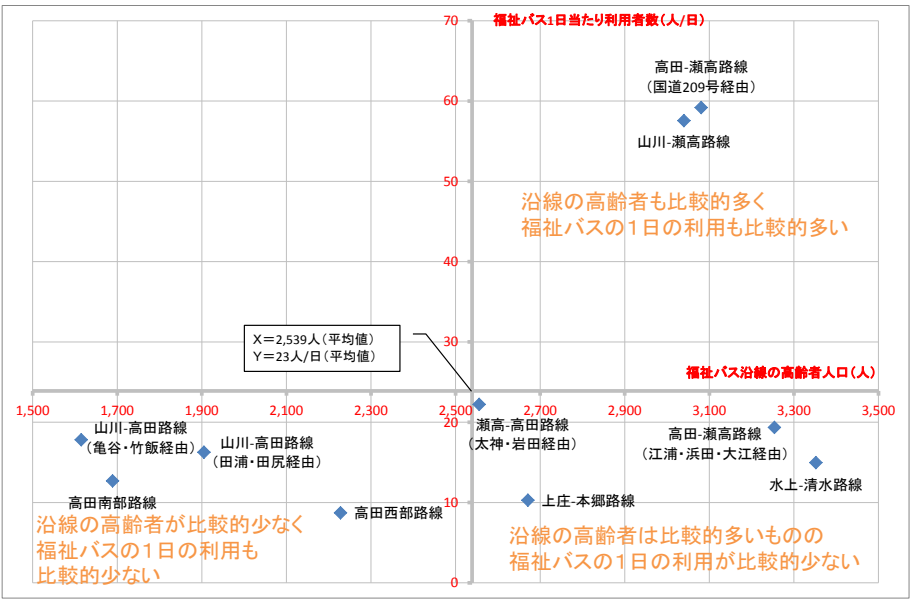


図3-7 福祉バスの年間利用者数と財政負担額の推移

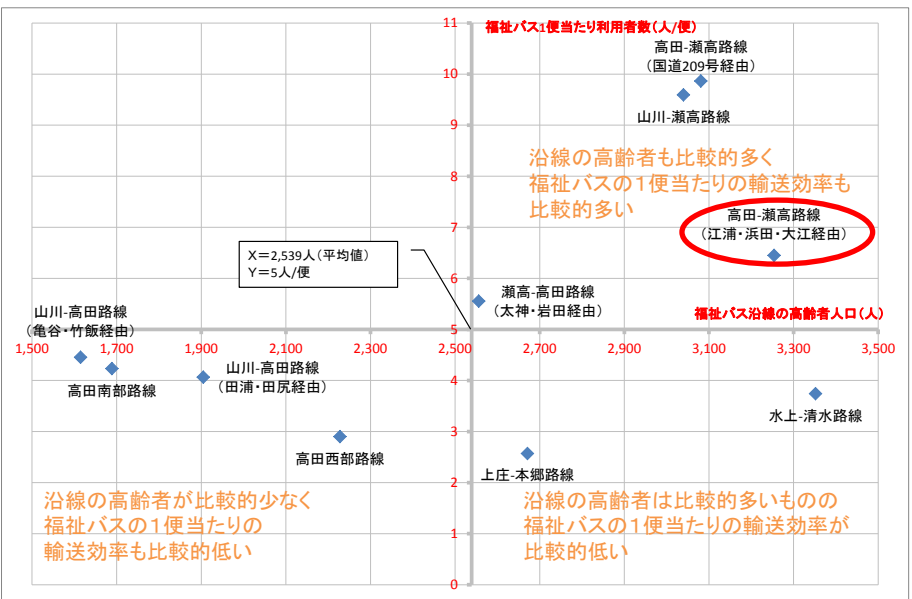
# 1)-② 福祉バスの運行の課題

- ◆ 各系統の沿線高齢者人口と日当たりまたは便当たりの利用者数の相関を見た。
- ◆ 上庄-本郷路線や水上-清水路線は、沿線人口が多いにもかかわらず利用が低い、つまり、ポテンシャルの割に利用されていない状況がうかがえる。
- ◆ また、高田瀬高路線日当たり利用者数では低いですが、便当たりでは利用が多く、他路線よりも効率的な運行となっている。



資料：平成28年度実績データ、H27国勢調査

図3-8 福祉バス一日当たり利用者数と沿線高齢者人口



資料：平成28年度実績データ、H27国勢調査

注)九州管内のコミュニティ交通の平均値:5人/便

図3-9 福祉バス一便当たり利用者数と沿線高齢者人口

## 2)-① 交通事業者が取り組んでいる利用促進策

- ◆ 路線バスは、高齢者や学生に対する割引サービスを実施している。
- ◆ タクシー会社は、ポーターサービス、ポイント積立等のサービスを実施している。

### 路線バス事業者が実施しているサービス

- ・高齢者(65歳以上)・・・**免許証自主返納による路線バス運賃半額**の割引証発行
- ・小学生、中学生・・・土日祝日及び春、夏、冬休みの運賃100円(小学生)及び200円(中学生)
- ・高校生・・・**通学定期券継続購入割引**(継続購入すると10ヶ月目から通学定期券料金から10%割引、さらに9ヶ月継続購入すると割引率が高くなる)、**土日祝日200円運賃**

### タクシー事業者が実施しているサービス

- ・**高齢者へのポーターサービス**を実施している。(各社)
- ・車椅子利用者については、運賃+500円でサービスをしている。(A社)
- ・ICカードの導入や配車アプリの導入を検討している。(A社)
- ・ゆめカードやTポイントにポイントを加算するサービスを行っている。(B社)

## 2)-② 運行に関する課題

- ◆ 路線バスについては、過去にはバスルートの見直しやバス停の新設を試みたが実施には至らず、ニーズに対応できていないところがある。しかしながら、要望のあるバス停すべての設置は困難である。
- ◆ 路線バス会社もタクシー会社も運転手の高齢化、新たな担い手の不足、特に若い世代のドライバー不足に悩んでいる状況にある。

### 路線バス事業者が抱える課題

- ・バス停の整備(要望のあるバス停すべての設置は困難である。維持管理も困難)
- ・以前に保健医療経営大学の近くにバス停を設置してほしい、という声はあったが、ダイヤ設定が難しく、設置には至らなかった。
- ・柳川市のゆめモールへの路線延長の話が以前あったが、電車との接続の関係で設定が難しい。
- ・**全体的な運転士の確保が必要**。運転士が高齢者化し、50代の人が多い。今は募集をしても応募してくる人がいない。若い人は二種免許をとろうとしない、また、きつい仕事、土日が休めない、などから応募しないのではないかと思う。(A社)

### タクシー事業者が抱える課題

- ・**運転手が高齢化**しており、50代は2割、後は60歳以上で、平均年齢が60歳を超えている。運転手の数が減っており、車があっても動かせない状況にある。(B社)
- ・**運転手の高齢化**。若い人が二種免許を取りたがらない。(C社)



## 2)-③ 交通事業者からの行政に対する意見・要望

◆ 各交通事業者から行政や地域に対して、以下のような要望が挙げられている。

### 路線バス事業者からの意見・要望

- ・学校への呼びかけ、広報誌への掲載等でバス利用を促してほしい。
- ・各行政区に呼びかけてバス利用を促してほしい。

### 福祉バス事業者からの意見・要望

- ・現在予定しているコミュニティバスは、福祉バスのサービスを拡充すると聞いているが、**現状でも利用者の要望を聞き入れて、こまめにルートやバス停を設定して運行している状況にあり、これ以上サービスを拡充すると、結局は現在の利用者も新たな利用者も利用しにくいサービスになってしまうように感じる。**
- ・現在、**福祉バスだからこそできている乗降補助やポーターサービスができなくなった**ときに、利用者が困るのではないかと危惧する。

### タクシー事業者からの意見・要望

- ・**タクシーチケットの補助を拡充**してほしい。(A社)
- ・人口減で利用者が減っているので、**市と地域で一体となって、利用促進策に取り組んでほしい。**(B社)
- ・清水寺の三重塔へは途中の駐車場までしかタクシーが入れないので、**道路を拡幅してはどうか。**(C社)